

令和7年度 珠洲市立蛸島小学校 後期学力向上プラン

年間のゴールの姿

対話を通しての「分かった」「できた」を目指し、自分の考えを分かりやすく表現できる。

1 授業づくり

(1) 現状と課題（R）

児童の課題	現状と要因・根拠となるデータ
適切な図・式・言葉を用いて、相手に分かりやすく伝えるための力が不十分である。	<p>[現状と要因]</p> <p>○ヒントカードやデジタル教科書、既習掲示、発展問題などの様々な手立てを準備したり、児童のねらい達成の姿を明文化したりすることで、ねらいに迫る問い返しができるようになってきている。</p> <p>▲どのような時がモヤットなのか曖昧な児童がいる。→モヤットのイメージを集会や校内研修で共通理解する。</p> <p>▲一人一人のスッキリ・モヤットの内容が不明瞭だったので、対話での「できた」「分かった」につながりにくい場面があった。→一人一人のスッキリ・モヤットを明示し、対話させたり、問い返しを行ったりする必要がある。</p> <p>[根拠となるデータ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7 中期：検証問題 71%，ノート検証 80%，アンケート 98% ・R7 5年石川県評価問題 算数 5（3）67% <p>マーカーコーン8個の重さが250gであることを基に40個の重さの求め方と答えを記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R7 6年全国学力調査質問紙 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。」（強肯定80%）

(2) 計画と実行（P・D）

具体的取組	評価項目	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・課題について考える時、まずは自力で解かせ、スッキリ・モヤットを引き出す。 ・一人一人のスッキリ・モヤットを明示させ、モヤットの児童の考えを中心に問い返しを行う。 	<p>実施検証・研究授業</p> <p>「自力解決の後スッキリ・モヤットを引き出す。」 (100%)</p> <p>「各自のスッキリ・モヤットを明示し、モヤットを中心に問い返す。」 (100%)</p> <p>成果検証「自分の考えを分かりやすく表現している。」 (90%)</p> <p>「対話の中でモヤットがスッキリになるように、質問や意見を述べている。」 (95%)</p> <p>児童アンケート「対話の中で、質問をしたり、意見や感想を言ったりすることができた。」 (100%)</p> <p>全校検証問題「自分の考えを分かりやすく表現している。」 (85%)</p>	

(3) 検証と改善（C・A）

月	評価方法（誰が、いつ）	結果	取組の成果○・課題▲
1	授業評価表（授業者 22日） 授業参観シート（27日） 特支（知的）のため、検証対象外		
2	授業評価表（授業者 10日）		
3	授業評価表（授業者 5日） 児童アンケート（学担 10日） 検証テスト（学担 5日） 教師アンケート（全員 13日）		

取組の成果○・課題▲

2 基盤づくり

目標	具体的取組	評価
漢字や計算の苦手分野を克服し、正確に取り組むことができる	<ul style="list-style-type: none"> ・昼学習に個々の苦手分野の習熟プリントに取り組む。 ・基礎基本の定着により、問題を解くスピード、正答率の向上を目指す。 	